

プロジェクトに関係した研究成果

2014 年の当研究所所員会議にて、プロジェクト参加所員・研究員の研究成果につき、上記タイトルのもと、所報本号より掲載することになりました。かねてより、しばしば議論して参りました所員間の研究にかかる相互コミュニケーションの促進、という観点からの試みです。今回は所報の出版スケジュール上時間の余裕もなかったことから、以下のリストも包括的なものではありませんが、今後一層充実させていきたいと思ひます。

企業研究所

所長 由里宗之

経営意思決定研究（主査：中村雅章）

中村雅章、矢野健一郎（2014）「服のインターネット・ショッピングと消費者の知覚リスクに関する実態調査研究」、『中京企業研究』第 35 号

中村雅章、矢野健一郎（2014）「消費者の個人属性が服のネットショッピングとリスク削減行動に及ぼす影響の考察」、『中京ビジネスレビュー』Vol.10

市場における再帰性の研究（主査：中西眞知子）

中西眞知子（2014）『再帰性と市場』、ミネルヴァ書房

中西眞知子（2013）「再帰性の変化と新たな展開」、『社会学評論』254

中西眞知子（2014）「市場（いちば）の再帰性」、『中京経営研究』23

知識ネットワーク（主査：向日恒喜）

論文

向日恒喜（2015）「組織特性、組織内自尊感情、知識提供動機が知識提供に与える影響：自己決定理論と有機的統合理論に基づく研究」『中京企業研究』No.36（印刷中）

学会発表

向日恒喜（2014）「組織特性、組織内自尊感情、知識提供動機が知識提供に与える影響：自己決定理論に基づく研究」『経営情報学会 2014 年度秋季全国研究発表大会予稿集』

向日恒喜（2013）「組織内自尊感情が知識提供に与える影響：組織特性、個人特性、知識提供動機を考慮したモデルの検討」『経営情報学会 2013 年度春季全国研究発表大会予稿集』

世界恐慌～戦中期の日米コミュニティ・バンク諸業態の構造的変化に関する比較研究（主査：由里宗之）

由里宗之、「戦時期における兵庫県下 3 銀行の合併中止の経緯とその後の神戸銀行との合併交渉過程 『兵庫県下における「地方銀行」の存続を』という企図の挫折」、『総合政策論叢』（中京大学）、第 5 巻、2014 年 3 月、1-73 頁

由里宗之、「職域信用組合の今日的役割 米国の職場型クレジット・ユニオンに学ぶ」、『2012 年国際協同組合年記念論文集』、全国信用組合中央協会、2014 年 3 月、31-52 頁

トヨタ自動車研究（主査：浅井紀子）

（以下、研究員：猿田正機、杉山直、浅野和也、櫻井善行、宋艶苓）

猿田正機編著『逆流する日本資本主義とトヨタ』税務経理研究、2014 年

猿田正機「管理教育と労務管理 トヨタ研究から見えてくるもの」（『職場の人権第 89 号』研究会・職場の人権、2014 年 12 月）、1-7 頁

猿田正機「巻頭言 トヨタの人事管理・労使関係と社会政策」『社会政策 第 6 巻第 2 号』2015 年 1 月、1-3 頁

杉山直「赤字業績下におけるトヨタの労使関係」（前掲・猿田編著所収）

杉山直「トヨタにおける賃金制度の展開」『中京経営研究』第 23 巻第 1 号・2 号、2014 年、183-204 頁

杉山直「赤字業績下におけるトヨタと関連企業の賃金格差」『中京企業研究』第 36 号、2014 年、浅野和也「トヨタの働き方の変化」（前掲・猿田編著所収）

浅野和也「トヨタにおける働き方の一考察」『中京企業研究』36 号、2014

宋艶苓、「グローバル時代におけるトヨタの関連下請け企業の雇用管理」（前掲・猿田編著所収）

櫻井善行「グローバル化による西三河の地域社会の変容—企業城下町を事例に」塩見治人・梅原浩次郎編『名古屋経済圏のグローバル化対応…産業と雇用における問題性』晃洋書房、2014 年 1 月刊行

櫻井善行「企業の社会的責任と日本的経営-----トヨタ研究とかかわって」（前掲・猿田編著所収）